

# PTA等共済だより

第37号  
2016/2/29発行  
(毎月末発行)

文部科学省生涯学習政策局  
社会教育課PTA等共済室  
直通電話：03-6734-2971  
メール：pykyosai@mext.go.jp

## ■平成27年度第2回のPTA等共済法研修会が開催されました。団体は過去最大の参加。

平成28年2月4日(木)と5日(金)に標記の研修会が開催されました。

4日(木)は都道府県教育委員会担当者向け研修で10県12名が参加、5日(金)は団体向け研修が27団体60名が参加されました。過去最大の参加人数となりました。

### 2/4(木)自治体向け研修

共済団体の指導監督にかかる全般的な内容の他、決算書の見方や共済団体の事業の状況及び財務状況について説明させていただきました。また、今回初の試みとして、これから立入検査を実施することを想定し、共済室職員が入ったのグループ討議を実施しました。

### 2/5(金)団体向け研修

通常の研修に加え今回は、新任者やこれから認可申請を検討している団体向けに基礎講座も設定し、PTA等共済法やモデル共済規程の説明をさせていただきました。認可団体11名の他、認可申請検討中の3団体6名が参加されました。27年度の終了をもってほとんどの団体が当初3年間の事業計画・収支予算の期間を終えることとなります。当初計画とのギャップが生じている団体もあるのではないのでしょうか。客観的に団体の状況を把握するための方法として、経営指標的な分析方法をご紹介させていただきました。また、最近の課題を共有する目的で事例発表を行っていただきました。また、恒例とはなりませんが、グループ討議を実施しました。

保険や共済は、その専門性や特殊性から誤解を招いたり、誤解から批判を受けることもあります。何よりも加入者保護の観点から、より一層のコンプライアンス運営に心掛けることによって、そうした誤解や批判に対して、毅然とした態度で正確な説明と反論ができるようにしておきたいものです。コンプライアンスは、自らを守る事でもあります。



2月4日(木)自治体向け研修会



2月5日(金)団体向け研修会



2月5日(金)団体向け研修会事例発表・グループ討議の様子

## ■共済団体のご紹介

### 一般財団法人山梨県高等学校安全互助会(共済事業開始：平成26年4月)

～医療共済金について～

いつもお世話になっております。共済事業開始2年目を終えようとしています。

当法人は、会員数約19,000と小規模団体で、1年目の共済金給付については、件数は36件、総額1,280,000円と少額でした(すべて医療共済金)。2年目当初、3,000,000円程度を予測していたのですが、平成28年2月24日現在、既に96件、4,400,000円に達しています(すべて医療給付金)。

連絡協議会、研修会などで他県の皆様も、医療共済金の増大と収支バランスについての懸念を述べられているのを、あまり実感を伴わずに聞いていましたが、ここにきて俄に焦りを感じてきました(^^;)

当法人の場合、医療共済金については、センターからの給付額を6段階に分け、段階に応じて10,000円から最高額100,000円まで給付することになっていますが、最高額給付(センター給付額400,000円以上の場合)等、高額給付が多くなっており、それと、怪我の件数増加を併せ給付額増大に繋がっています。3年目、4年目とどう推移していくかわかりませんが、5年経過したところで、実績危険率を再計算し、純掛金等見直すなかで、共済規程の改定も視野に入れ、収支の健全化を図りたいと考えています。今後とも、文科省社会教育課PTA等共済室の皆様を始め、他団体の皆様方のご指導・ご支援をよろしくお願いいたします。(事務局長 跡部 和)



跡部事務局長と中島さん

## PTA等共済室

- 2月4日(木)PTA等共済法研修会(自治体向け)(吉谷、会田、松田)
- 2月5日(金)PTA等共済法研修会(団体向け)(吉谷、会田、松田)
- 2月10日(水)三重県PTA安全互助会 法人化・共済事業認可準備委員会(吉谷)
- 2月17日(水)沖縄県高等学校安全振興会研修会(吉谷)
- 2月19日(木)沖縄県PTA連合会研修会(吉谷)

左：沖縄県高等学校安全振興会研修会  
右：沖縄県PTA連合会研修会



## ■おしらせ

- ・内部研修等を予定している団体で講師派遣が必要な場合は、日程調整が必要になる場合がありますので、お早目に御相談ください。これから認可申請を検討する団体からの御相談もお受けします。
- ・年度末の決算処理に向けて、各種準備金等の算出や財務諸表への表記等の御相談はお早目に。
- ・新年度の共済契約書の申込(契約締結)は、新事業年度開始前までに行うこととされています。

認可後の運営や共済事業の見直し、指導や監督等について御相談がありましたら、お気軽にPTA等共済室まで御連絡ください。認可申請についての御相談もお待ちしております。一緒に解決していきましょう。

＜次号の発行予定：3月31日＞



## ■ 共済団体のご紹介

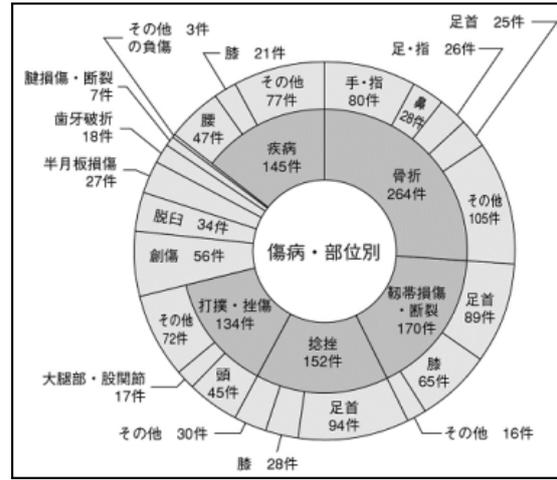
一般財団法人北海道高等学校安全互助会（共済事業開始：平成27年4月）



理事会（H28.2.13）

札幌雪まつりで冬の観光シーズンも終わり、寒さの中での卒業式を終えると北海道民は春が近づいていることを実感します。

本会の共済事業の初年度も終盤を迎えました。この一年は給付条件や事務手続きの理解が十分に浸透していない部分があり、学校の担当者と連絡を取り合う日々が続きました。他団体と同様、件数・金額とも予想を上回る給付が行われましたが、幸いなことに死亡や障害は発生していません。



1月末現在の生徒の傷病発生1,010件を傷病・部位別にグラフ（右参照）にしました。傷病別では骨折や靭帯損傷が最も多く、特に鼻の骨折の多さは驚きです。部位別では足首、膝など下肢が5割を占めます。PTAが設立した安全互助会では普及啓発事業を充実し、「災害を未然防止する」ことも目標のひとつです。

本会の共済事業はスタートしたばかりですが、今後とも相互扶助の精神に立ち、人々の保険に対する意識の変化や、市町村毎に医療費の公費負担が拡大していること等を考慮しつつ、皆様の助言をいただきながら制度改善を図る所存です。（事務局長 井村美彦）

## 一般社団法人新潟県高等学校PTA安全互助会（共済事業開始：平成27年4月）

本会は、昨年4月に一般社団法人新潟県高等学校PTA安全互助会として生まれかわり、無事、共済事業のスタートを切ることができました。現在、97校52,523人、PTA加入校の98.7%の皆様から加入をしていただきました。設立の準備段階からいただきました共済室的確なご指導と連絡協議会の皆様のご支援のおかげと感謝申し上げます。



中村さん、吉田さん、荒木事務局長

今回、共済事業に関わる立場になって感じることは、事務局に提出される災害件数の多さとその医療費支払額がかなり高額になっていることです。災害における精神的、経済的な負担は計り知れないものがあり、この事業がそういった災害にあった生徒、保護者の皆様の支援になっていることを感じています。

連絡協議会では、会員の減少、給付額の増加及びそれに伴う掛金の値上げ等々の課題が挙げられていました。本会も共済事業を開始したばかりではありますが、実務を行い見えてきた課題が幾つかあります。これからは様々な課題を解決すべく法人として適切な運営に取り組んでまいりたいと思います。今後ともご指導よろしくお願い致します。

（事務局長 荒木和義）

## 一般社団法人茨城県PTA安全互助会（共済事業開始：平成27年4月）

PTA共済法に則った法人に改組して初めての決算となる年度末を迎えます。保険業法の改正を挟み、茨城県PTA安全互助会としては来年度25周年になりますが、この時期になると3月11日に起きた東日本大震災による事務局の被災・移転など、困難な局面を乗り越えてきたことを思わずにはいられません。直近には常総市の大規模浸水被害もあり、いまだ困難な局面にあるPTA会員に対しては、状況が改善されることを祈るばかりですが、本会といたしましては本来の事業を全うすることが、わずかではありますが支援へと繋がるものと信じ活動しております。



綿引さん、大津事務局長

主な事業としてPTA活動中におけるPTA会員の負傷に対し共済金を給付しておりますが、PTA等共済法に則り安全普及啓発活動も開始しております。内容は単PやP連主催の「交通安全教室」や「インターネット安全利用講習」などへの助成金給付と同目的のDVD貸出事業となっております。去る2月7日には日立市P連が単P会長会で「子どもたちを取り巻くネット環境」について講習を開催するにあたり助成金を交付しましたが、大きな気付きの機会となったようです。助成を通し児童生徒の安全安心そして健康が維持されますよう、これからも活動を拡充して参りたいと考えております。（理事長 石井美知夫）



石井理事長

## ■ 次回のPTA等共済法研修会のお知らせ

次回研修は、次のとおりの日時で予定しています。詳細が決まりましたら、改めてご案内いたします。自治体向け…6月2日（木）13～17時、団体向け…3日（金）13～17時となる予定です。

本誌も来月で3周年を迎えます。次号では、PTA等共済のこれまでの経過をたどりながら、本誌3年間も振り返りたいと考えています。御意見、御要望、御感想等をお寄せ下さい。（締め切り：3月22日（火））

## ■ 編集後記

息子が高校に入学するとき、ここからは自分で選ぶ道、勉強したくて高校に行くのだから、自分で勉強するようにと、通っていた塾もやめさせ、自分で勉強する方法を探し、実行するように言い渡した。結局2年の終わりからはまた塾通いになったが、それまで部活帰りに図書館に通い友達らと勉強するなど苦労していた。努力の甲斐もあり、第一志望の大学に合格できた。自分の進む道を自分の意思で決め、それに向い一生懸命に取り組んでいるその姿を見ると親としては、応援したい、希望を叶えてほしいと心から思った。子供達のためと活動するPTA等もそんな素直な気持ちからはじまるものかもしれないと感じた。「自分で考え、自分で行動する」親の気持ちをしっかりと受け止め、一つずつ大人に近づいていることを頼もしく、また、うれしく思う。大人になるスピードは、親が考えているよりもずっと早い。（PTA等共済室：バカ親吉谷）



サクラサク